

1202-1

12月2日 10:45-11:15(日本時間 18:45-19:15)

**“Profiles for Japanese Aerospace Industry”**

(日本の航空宇宙産業について)

講演者: 羽中田 実(SJAC)

1. 歴史を見ると100年前の1919年にフランスよりの使節団が日本を訪れ、50人が一年間日本に滞在した時から日本の航空産業は始まっている。昨年100周年となった。
2. 売上はコロナ前だが、防衛も含め\$20 billionレベル(為替を\$1=¥100として計算)。2017年の円での上は防衛が357、民間航空機が1,737で、総計2,194(2兆1,940億円)。2000年より上昇しているが、売上高は比較的少ない。しかし実際には材料なども含めた他の産業におけるベースが背景にある。
3. 従業員数は35,000~36,000人で製造分野に関わっている。これにもMRO(JALやANA)を足すと40,000人に上る。
4. 外国との貿易で見ると、ボーイングとのビジネスはマイナスとなる。モジュールや部品をボーイングに輸出しても、航空機を買い入れると帳尻はマイナスとなる。一方、エンジン分野では、ロールス・ロイスの仕事が大きい。エアバスの仕事も取り、全体を増やしていきたい。
5. A380へは日本企業も参加していて、その分担箇所を示したイラストが有る。次のエアバスの機種で日本の分担が増える事を願う。海外へは、元々ボーイングの767に参加した事から国際プログラムに日本が参加する様になった。ホンダジェットはアメリカを拠点としている。
6. エンジンプログラムへの参加は色々なエンジンへ日本の企業がパートナーとして参加している。スネクマ/GEのLEAPエンジンには日本の中小企業のアロエッジがスネクマへのサプライヤーとなっている。
7. ヘリコプターについては、国際プログラムにはあまり入っていないが、ヘリを作るOEMとしての能力は日本に有る。
8. 装備品や材料分野にも日本は参加している。ランディング・ギア、アクチュエーター、ギャレーなどに入っている。材料ではチタンや炭素繊維が有り、またリチウム・バッテリーは787に使われている。

9. 宇宙に関しては、ロケットシステムにおいては、液体ロケットと固体ロケットが有り、H-III は次世代ロケットとして開発中で、種子島より打ち上げが行われる。また衛星の統合/製造も行われ、はやぶさ II 号機は現在地球へ帰還中。
10. 日本の航空産業の発展をサポートする活動として、SJAC は展示会を主催している。国際航空宇宙展は 1966 年より始まり、次の開催年は 2021 年の予定であったが、2022 年に遅れ、おそらく 2024 年まで開催が遅れるだろう。
11. 日本には航空宇宙クラスターが 45 有り、800 の SME が参加している。NAMAC の事務局を SJAC が行っている。フランスのクラスターとの連携は地域のクラスターとで行われている。
12. あいち・なごやコンソーシアムは、エアロマート・トゥールーズへ 5 社の出展を支援している。その他にもひびき精機とか AC イシカワも参加しているので、交流を深めて欲しい。
13. 日本とフランスの政府間交流においては 2013 年に協力推進が合意され、2019 年に変更がなされた。EU と日本での合同委員会を作り、アカデミアも入れた活動を行っている。
14. GIFAS と SJAC の国際的關係はより深まり、パリエアショーなどでは合同の VIP レセプションを開催している。パリエアショーには C-2 輸送機や P-1 哨戒機といった防衛関連の航空機も紹介した。また GIFAS の人々は日本を訪問している。
15. コロナに打ち勝ち、次は CO2 削減で幅広い協力関係を結び、また 100 年前にスタートした友好関係を今後も続けていきたい。またパリエアショー2021 で皆様とお会いしましょうとコメント。